

中国モンゴル族の飲食文化  
——中国青海省海西州モンゴル族の飲食文化にみる多様性と地域性

歴史民俗資料学研究科  
博士後期課程  
阿盈娜

論文要約

中国には55の少数民族が住む。モンゴル族は少数民族のひとつで、多数のモンゴル族は内モンゴル自治区に住む。内モンゴル自治区以外では、東北三省、甘粛省、雲南省、青海省、新疆ウイグル自治区などの地域に分布している。モンゴル族に関する研究は集中的に居住するモンゴル国や内モンゴル自治区を中心に行われてきたが、これらの地域以外に居住するモンゴル族の人々の生活を記述し、研究することはモンゴル族の文化の構成と同じ民族は地域による文化の伝承の異同を通して重要であることと思うようになった。本論は、この思いからの課題である。

本論文の主要な調査地は青海省海西モンゴル族チベット族自治州であり、現地の飲食文化が他の地域との異なる点を明らかにするために、内モンゴル自治区通遼市科尔沁左翼後旗オングスガチャと内モンゴル自治区四子王旗ガシュガチャ二つの地域の調査データを基づいて、研究を進んでいた。そして、本論文はモンゴル族日常生活の食事行動と風俗を基づいて、年中行事や祭祀中の行事食、儀礼食についてその食事行動を記述することで、モンゴル族の共食する習慣と各地域のモンゴル族の飲食文化の多様性を些かなりとも明らかにすることを目的とする。

本研究は、序章と第一章から第五章、そして終章から成る。

第一章の中で梅棹忠夫の調査結果と比べたら、調査地のモンゴル族がヤギの生産からの管理方法、子ヤギに関する哺乳作業やヤギの搾乳作業に関する内容を詳しく紹介した。特に中のヒツジが生まれたとき天気が寒いので、牧畜民が放牧するときずっと「ネムネ」という道具を準備する例や体が弱い家畜をゲルや家の中に泊まる例など内容からみると、現地のモンゴル人が五畜に対する深い感情を持つ習慣をきちんと守っていることがわかる。

第二章の中で筆者はチベット高原に居住している中国青海省海西州都蘭県ゾンジャ鎮テングーレゲ村のモンゴル族の家畜であるヒツジを屠る作業について、ヒツジを草原から連れてくることから屠る作業に関する前提条件とタブーを述べて後、内モンゴル自治区通遼市科尔沁左翼後旗オングスガチャの豚の屠る作業と食事行動を比較して紹介した。そして、各地域のモンゴル族は生活している自然環境や社会環境により、それぞれ独特な地域文化を形成していることは指摘できた。

第三章では、現地のモンゴル族の日常生活と年中行事や祭祀中の不可欠な部分である、ミルクティーとハダカムギを炒って麦粒を製粉するバレスン・ゴウリルと乳製品で作った儀

礼食である‘シュームル’を紹介した。‘シュームル’と言うのは、チベット高原に特有な穀物であるハダカ麦と乳製品で作った、チベット仏教に深い関連性がある儀礼食である。

第四章では、現地調査データの基づき、モンゴル族のゲルの中の食事空間の位置づけと道具などの面からの分析を行いました。また、青海省海西州モンゴル族のゲル内部のホイモリ、男性の空間、女性の空間、カマドの空間、を詳しく紹介して、モンゴル民族の生産や生活の基礎、日常生活の全て、がゲルの中に凝縮されていることを明らかにした。

第五章では、モンゴル族の正月である「ツァガンサル（白い月）」中の六種類の儀礼食の食材から作り方、献ずる過程や人々の行動などを紹介した。そして、第一章から第四章に記述した日常生活の食事活動と儀礼食との関連性を分析して、モンゴル族の共食する習慣を些かなりとも明らかにしました。

終章では、本論文全体を総括した。